

第361回 昭和大学学士会例会（保健医療学部会主催）

日 時 2020年1月15日（水） 13:00～16:00

場 所 昭和大学横浜キャンパス 203号室

開会の挨拶

昭和大学学士会副会長・保健医療学部長

下司 映一

1. 大学病院に勤務する看護職員における部署異動の経験とSOC（Sense of Coherence：首尾一貫感覚）及び職業ストレスの関連性

昭和大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻
基礎・臨床・統合医療領域

白戸 信行^{1,2)}

¹⁾ 昭和大学大学院保健医療学研究科

²⁾ 昭和大学病院附属東病院

下司 映一¹⁾, 安部 聡子¹⁾

榎田めぐみ¹⁾, 福地本晴美¹⁾

椿 美智博¹⁾, 藤後 秀輔¹⁾

長嶋 耕平¹⁾, 田中 伸¹⁾

【発表内容掲載論文】

投稿中または投稿予定

2. 救急救命センターの三次対応を行う看護師の行動分析

—監視カメラ映像を用いた事例検討による
分析—

昭和大学大学院保健医療学研究科内部障害リハビリテーション領域

藤後 秀輔^{1,2)}

¹⁾ 昭和大学大学院保健医療学研究科

²⁾ 昭和大学藤が丘病院救急医療センター

下司 映一¹⁾, 安部 聡子¹⁾

田中 伸¹⁾, 熊沢 真弓²⁾

林 宗貴²⁾, 椿 美智博¹⁾

長嶋 耕平¹⁾, 白戸 信行¹⁾

福地本晴美¹⁾

【発表内容掲載論文】

投稿中または投稿予定

3. COPDセルフ・エフィカシースケール日本語版の作成及び信頼性と妥当性の検討

昭和大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻
内部障害リハビリテーション領域

鶴田かおり^{1,2)}

¹⁾ 昭和大学大学院保健医療学研究科

²⁾ 昭和大学病院リハビリテーション室

³⁾ 昭和大学保健医療学部理学療法学科

宮川 哲夫^{1,3)}

【発表内容掲載論文】

昭和学会誌, 2020;80:144-154.

4. 機械学習を用いた作業療法の定義の解析—作業療法の意味と分類の解析—

昭和大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻
精神障害リハビリテーションと呼吸ケア領域

鈴木 哲理¹⁾

¹⁾ 昭和大学大学院保健医療学研究科

²⁾ 昭和大学保健医療学部作業療法学科

³⁾ 昭和大学江東豊洲病院

鈴木 久義^{1,2)}, 青木啓一郎^{2,3)}

【発表内容掲載論文】

投稿中または投稿予定

5. 昭和大学病院および附属東病院において
2018 年 4 月から 2019 年 3 月に発生した
アクシデント要因の解析：大学院保健医
療学研究科医療安全管理学特論の成果物
第 2 報

- ¹⁾ 昭和大学大学院保健医療学研究科
²⁾ 昭和大学横浜市北部病院放射線技術部
³⁾ 昭和大学病院放射線技術部
⁴⁾ 昭和大学統括放射線技術部
尾崎 道雄^{1,2)}, 佐藤 久弥^{1,3)}
加藤 京一^{1,4)}, 福地 邦彦¹⁾

【発表内容掲載論文】

投稿中または投稿予定

6. 看護師の夜勤明け超過勤務の実態と超過
勤務削減対策の効果評価

昭和大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻
地域・在宅ケア・マネジメントと医療施設ケア領域
古川 浩次¹⁾

- ¹⁾ 昭和大学大学院保健医療学研究科
²⁾ 昭和大学病院
³⁾ 昭和大学保健医療学部看護学科
三村 洋美³⁾, 樋口 恵子^{2,3)}

【発表内容掲載論文】

投稿中または投稿予定

7. 心臓カテーテルアブレーション治療患者
の IVR 室占拠時間短縮に向けた取り組み

昭和大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻
医療マネジメント領域

百石 仁美

昭和大学大学院保健医療学研究科

上條 由美, 的場 匡亮

【発表内容掲載論文】

投稿中または投稿予定

8. 急性期病院における退院支援看護師が感
じるがん患者退院支援の困難感

昭和大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻
博士前期（修士）課程 CNS コース

緒方空見子¹⁾

¹⁾ 昭和大学大学院保健医療学研究科

²⁾ 昭和大学保健医療学部看護学科
本間 織重²⁾, 米村 智子²⁾,
梅田 恵¹⁾

【発表内容掲載論文】

投稿中または投稿予定

9. 医療機関におけるがんピアサポート活動
に関する実態調査

昭和大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻
博士前期（修士）課程 CNS コース

櫻井めぐみ^{1,2)}

¹⁾ 昭和大学大学院保健医療学研究科

²⁾ 横浜市立市民病院看護部

梅田 恵¹⁾

がん医療において患者アドボケイトが重要視されるようになり、今後ピアサポートの普及が課題となっている。そこで、今回がんピアサポートの実態について調査することとした。

【目的】院内でピアサポート活動に関わってきた関係者らによる語りから、がんサロンの在り方やピアサポートの活用について示唆を得る。

【方法】ピアサポートに関わりのある関係者を対象に半構造化面接を実施し、質的帰納的に分析した。

【結果】対象施設では週 1 回ピアサポーターによる個別相談（平均 3 人 / 日）の実施と、がんサロンを年 4 回試行（平均 13 人 / 回）した。看護師とピアサポーターを対象にインタビューを行い、【ピアサポートに対する不安】【関わることで変化した認識】【ニーズの拾い上げと周知への課題】【ピアサポーターとしての心構え】【医療者との協働から生まれるこれからのピアサポートの形】【医療者からの疎外感と拠り所のなさ】が抽出された。

【考察】これまでの活動状況やコンセプトが共有されていなかったことが推察され、医療者とピアサポーターの潜在的な不安や疑念を生み、効果的で機

能的なピアサポートの活用に関心が持たれていないと考えられた。看護師はピアサポートを利用した患者の変化から、院内にピアサポートの場があることの必要性を理解し、患者支援のリソースの一つであると認識していたことから、組織横断的に活動している看護師が橋渡し役を担うことが重要であることが示唆された。

10. がん診療連携拠点病院で外来化学療法を受ける患者・家族からの電話相談の実態調査

昭和大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻
博士前期（修士）課程 CNS コース

島村 良美¹⁾

¹⁾ 昭和大学大学院保健医療学研究科

²⁾ 昭和大学病院看護部

本間 織重²⁾，梅田 恵¹⁾

【発表内容掲載論文】

投稿中または投稿予定

11. 人工股関節全置換術後患者の回復期リハビリテーション病棟入院時のエネルギー出納が身体機能に及ぼす影響

昭和大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻
運動障害リハビリテーションと呼吸ケア領域

米谷 将吾^{1,2)}

¹⁾ 昭和大学大学院保健医療学研究科

²⁾ 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーションセンター

池田 崇²⁾

【発表内容掲載論文】

投稿中または投稿予定

12. MR 画像を用いた仮想膀胱鏡の検討

昭和大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻
診療放射線領域

秋葉 泰紀^{1,2)}

¹⁾ 昭和大学大学院保健医療学研究科

²⁾ 昭和大学横浜市北部病院放射線技術部

³⁾ 昭和大学病院放射線技術部

⁴⁾ 昭和大学統括放射線技術部

中井 雄一²⁾，高橋 俊行^{1,2)}

佐藤 久弥^{1,3)}，加藤 京一^{1,4)}

【発表内容掲載論文】

投稿中または投稿予定

13. 小児発熱性疾患における血中可溶性 CD14 サブタイプ（プレセプシン）の変動

昭和大学大学院医学研究科病理系臨床病理診断学
専攻

山口 勇人

昭和大学横浜市北部病院臨床病理診断科

木村 聡

【発表内容掲載論文】

臨床病理. 2016;64:1001-1006.

14. 非感染性肉芽腫性皮膚疾患における CD14, CD16 の免疫組織学的検討

昭和大学大学院医学研究科内科系皮膚科学専攻

伊藤 雄太

昭和大学医学部皮膚科学講座

渡辺 秀晃，末木 博彦

【発表内容掲載論文】

投稿中または投稿予定

15. 日本人 BRCA1 L63X 創始者変異の乳癌 臨床病理学的特徴の検討

昭和大学大学院医学研究科外科系外科学（乳腺外
科学分野）専攻

吉田 玲子^{1,3)}

¹⁾ がん研究会有明病院臨床遺伝医療部

²⁾ 上智大学総合人間科学部看護科

³⁾ 昭和大学医学部外科学講座（乳腺外科学部門）

⁴⁾ 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健
医療学専攻遺伝カウンセリング分野

⁵⁾ 日本 HBOC コンソーシアム登録委員会

渡邊 知映²⁾, 横山 士郎³⁾,

犬塚真由子³⁾, 四元 淳子^{4,5)},

中村 清吾²⁾

【発表内容掲載論文】

Oncotarget. 2019;10:3276-3284.

閉会の挨拶

昭和大学大学院保健医療学研究科科長 教授

三村 洋美